

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】【他産業の参入】【女性・若者の力】

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 1. 都道府県、市町村 | 岐阜県郡上市 ^{ぐじょうし} |
| 2. 事業者名 | 郡上八幡・山と川の学校 |
| 3. 取組みの名称 | 小学生を対象にした自然体験・農山村体験「冒険キッズ」 |
| 4. 取組概要等 | |

概要

平成8年、電機関連会社パブリックシステム(株)の社員が「自然・農山村体験を都市の方々に提供する」という自らのライフワークを事業化することを提案し、一事業部として開始された。平成10年から始められた「子どもだけで行く自然体験旅行冒険キッズ」で、都市の子ども達(主に小学1～6年生を対象、障害を持つ子どもの受け入れも行っている)に岐阜県郡上市八幡町周辺で四季折々の自然・農山村の魅力を体験出来るイベントツアーを提供している。都市の生協を中心に参加申し込みを募集し、事前の説明会や体験入学も行っているため、参加者の口コミで人気ที่広がり、年間延べ1万人近い子ども達が参加するほどの大きな支持を得て現在に至っている。

冒険キッズは通常、日帰り又は一泊コースを選択し、子ども達だけで四季折々の自然・農山村体験を行う。長期休暇では農山村留学や冒険島ツアーもあり、さらに家族で自然体験を中心に田舎を満喫する「カントリーライフ」ツアーも取扱っている。

冒険キッズを運営する際、バス送迎時の引率や安全・健康管理を担当し、冒険キッズへの取っ掛かりを作るスタッフを「バスナビ」と呼び、子ども達を自然フィールドへ誘導し自然や田舎の面白さを伝えたり、地域農産加工組合と協力して地元産の新鮮な食材にこだわった季節のごはんを提供し、民宿女将の会と連携しながら子ども達の生活全般に渡ってフォローする役目を果たしている。その他、地元の高校生から高齢者までの幅広い年齢層の方々や大学生等が教育・研修を受けて登録スタッフとして参加し、冒険キッズの活動をサポートしている。若いスタッフは冒険キッズの自然や田舎のおもしろさを、子供と近い距離で伝え、自然の中へいざなう大きな役割を果たしている。

活動の規模

項目	H13	H14	H15	H16	H17
売り上げ	40,000	55,900	79,800	98,800	96,000
解説	単位：千円 年々参加者が増え、現在は一定の売り上げを確保している				
雇用者数	5	7	8	9	9
解説	単位：人 初期は組織的体制が不十分であったが、近年事業が安定してきた				
イベント回数	100	130	180	220	210
解説	単位：回 冒険キッズの実施回数。1日あたり3～5チーム実施することもある				
イベント参加者	3,888	5,350	7,631	9,454	9,192
解説	単位：人 H13年を基準に見ると約2倍で、年間延べ1万人の来客数を集めている				

活用している地域資源

子ども達が遊ぶフィールドとなる岐阜県郡上市の四季折々の大自然(吉田川周辺)
 地域公民館、集会所等公共施設(着替えや昼食、オリエンテーションの場として)
 地域で栽培した米・野菜等食材、農産加工品(地元のおいしい食事の提供)
 地域農産加工組合の主婦、民宿の女将、高校生から農業従事者まで地域の人的サポート

地域活性化のポイント

冒険キッズでは、地域農産加工組合から米・野菜を調達し、民宿へ調理を委託し公共施設を積極的に利用する等、地域を活用して地元へ経済的な還元が出来るように配慮している。上記の端的な経済効果以上に、都市から大勢の子ども達を受け入れ、町中に元気な声を響かせることで、地域の人々、特に高齢者層に精神的活力や潤いを与えるきっかけとなっている。また、冒険キッズの活動に自主的に参加してる日本福祉大学の「冒険キッズサークル」や同志社大学からのインターンシップの受け入れも行い、さらに都市から農山村へ毎年3~5人程度の若者が移住・就職を希望している等、若者の農山村と都市の双方向の交流が広がっている。

事業の今後の展開方向

冒険キッズの運営から地域とのつながりが深まるにつれて、農村従事者の高齢化や減少が進行している現状に気づいた。そこで、豊かな自然とあたたかい人間関係のある農山村の魅力と実情をより多くの人々に伝え興味を持ってもらうために、『季刊 里山の袋』の発行を始めた。同誌の中で、耕作放棄地や放置林の増大に歯止めをかけ、里山の営みをつなぎながら農山村の機能を回復するため、田畑の再生に協力してくれるオーナーを募集する「里山再生トラスト」のプロジェクトの募集をかける等、力を入れている。

今後も里山の暮らしの豊かさと伝統を継承していけるよう、グリーン・ツーリズムを利用して都市住民の方々に協力を仰ぎ、地域に役立ち還元ができる農山村と都市との本質的な繋がりの構築を目指していく。

